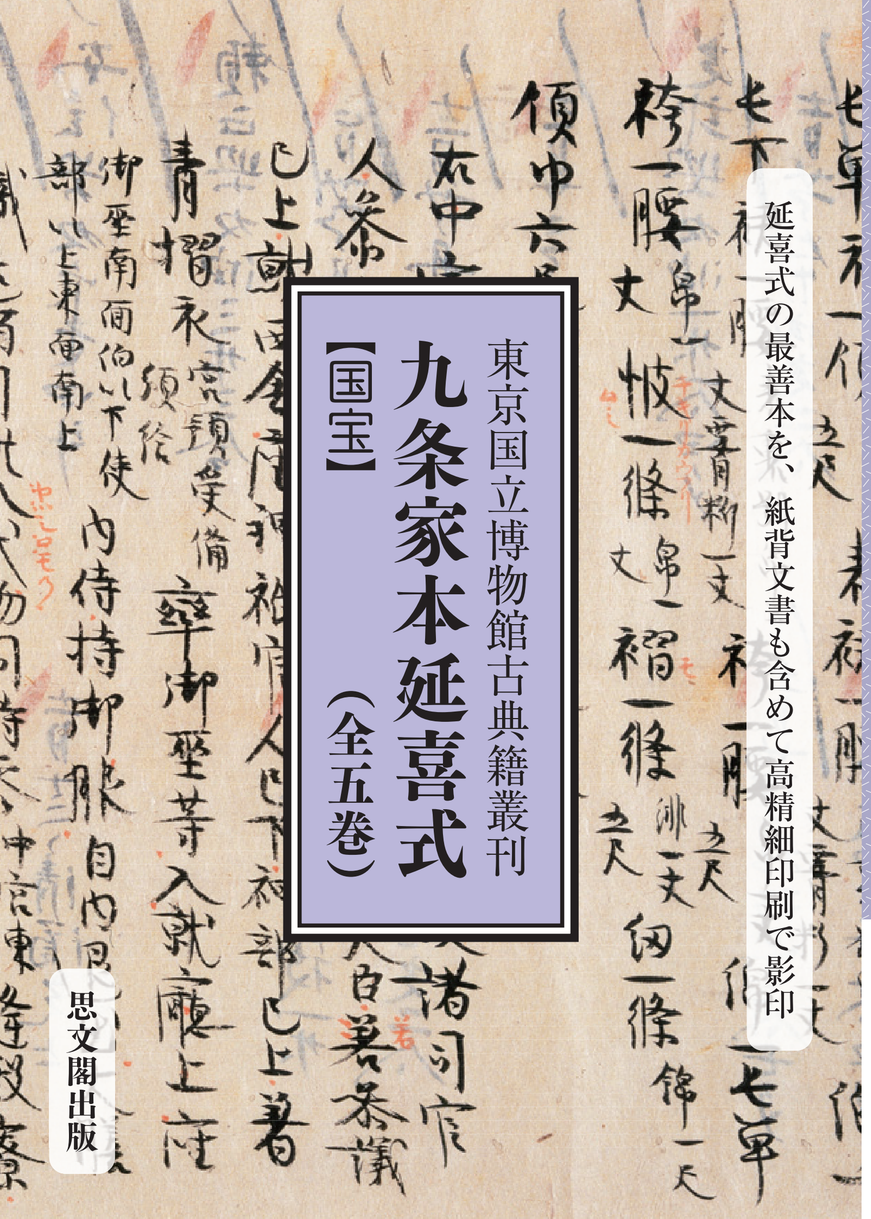


延喜式の最善本を、紙背文書も含めて高精細印刷で影印

東京国立博物館古典籍叢刊

九条家本延喜式

【国宝】（全五巻）

思文閣出版

読者対象・キーワード

日本古代史
日本中世史
国文学
日本語学
法制史
神道史
建築史
書道史

第一回配本

九条家本延喜式（一）

巻一・二・四・六・七甲・七乙

▼A5判・四五〇頁／定価一五、七五〇円（税5％込）

平成23年3月刊行予定

以後続刊

第二回配本　九条家本延喜式（一）　平成23年6月
巻八～十一

第三回配本　九条家本延喜式（二）　平成23年9月
巻十二・十三・十五・十六・二十～二十二

第四回配本　九条家本延喜式（四）　平成23年12月
巻二十六～三十一

第五回配本　九条家本延喜式（五）　平成24年3月
巻三十二・三十六・三十八・三十九・四十二
紙背文書全点翻刻・解説

▼A5判・クロス装・ケース入り
各巻平均五〇〇頁／予価（各一二、五七〇円

東京国立博物館古典籍叢刊 続刊

※いずれも刊期未定

国宝　元暦校本万葉集
平安時代の書写になる『万葉集』の写本。元暦元年（一一八四）の校合奥書を持つことからその名がある。当代の能筆により装飾料紙に書かれた『万葉集』の最善本の一つである。

国宝　元永本古今和歌集
元永三年（一一二〇）の奥書を持ち、仮名序および全二〇巻を完存する最古の写本。多彩な装飾料紙と藤原定実等と推定される流麗な筆による平安時代を代表する古写本の一つである。

国宝　寛平御時后宮歌合
寛平年間（九世紀末）に宇多天皇の母班子女王が催した歌合の記録。この一巻は藤原頼通が編纂を企画した「十巻本歌合」の草稿の一部で、僚巻が陽明文庫・前田育徳会などに伝わる。

国宝　三宝絵詞
藤原為憲の編になる平安時代中期の仏教説話集。原本は絵と詞から成っていたが、本書では詞書のみが伝わる。この写本は文永一〇年（一二七三）の書写奥書があり、もと東寺観智院に伝来したものである。

国宝　群書治要
唐代に編纂された政治の参考書。歴史上の典籍から為政者に有用な言葉を抄出・類別したもの。中国では早くに散逸し、日本にのみ残った。美しい装飾料紙に端正な筆跡で書写された平安時代の古写本である。

思文閣出版

〒606-8203　京都市左京区田中関田町2-7　tel. 075-751-1781　fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp　E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

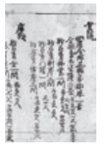
注文票	発行：思文閣出版（京都　取引コード 3402）	
冊数	冊	九条家本延喜式㈠　本体15,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1535-5
	□九条家本延喜式 以後続刊予約（刊行のたび送本）	
お名前		tel e-mail
ご住所		
送本方法	□書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） □代　引（書籍代＋送料を現品と引き替えにお支払い下さい）	書店番線印

◎ 思文閣出版 関連書籍のご案内 ◎

（表示価格は５％税込）

安祥寺資財帳　京都大学史料叢書⑰

京都大学文学部日本史研究室編



真言系密教寺院である安祥寺の資財帳は、開基僧恵運（798～869）が貞観９（867）年に自ら勘録したもので、巻首から巻尾まで備わった貴重な９世紀の資財帳史料の一つ。京都大学蔵本（旧観智院蔵本）を影印で収録。釈文と解説を付す。

▶A5判・176頁／定価 5,775円
ISBN978-4-7842-1516-4

兵範記人名索引

兵範記輪読会編

1980（昭和55）年の輪読会発足より蓄積された研究成果を人名索引として集成。（増補）史料大成本を底本とし、男子の部と女子の部の２部構成よりなり、人名項目のもとに掲出年月日と原文表記を掲げ、原本の情報を盛り込んだ。古代・中世史研究者必携の一書。

▶A5判・484頁／定価 9,450円
ISBN978-4-7842-1358-0

禁裏・公家文庫研究［既刊３冊］

田島公編

古典籍や古文書が約６万部所蔵されていると言われながら、勅封のため全容が不明であった東山御文庫本など近世の禁裏文庫収蔵の写本や、交流がある公家の文庫収蔵本に関する論考・データベース・史料紹介を収載。

▶B5判・平均420頁／①②各定価 10,290円
③　定価 12,390円

日中親族構造の比較研究

官文娜著　　思文閣史学叢書

近代以降、日本は西洋異文化との融合を果たしたが中国で不可能だったのはなぜか。日中親族集団の構造を手がかりに日本が中国の親族文化、特に宗族制度を受容しなかった理由、両国の近代以降における西洋異文化との衝突の原因と融合の条件を探る。

▶A5判・430頁／定価 7,560円
ISBN4-7842-1241-8

摂関時代文化史研究

関口力著　　思文閣史学叢書

古記録・日記類をもとに、摂関時代全盛期に生きた人物、および当時の社会を考察。政権掌握した体制派、対する反体制派、そしてそうした官人群とは一線を画した非体制派の人物群という人間類型を示すことで、人間が主人公である歴史の在り方について追究。

▶A5判・488頁／定価 9,450円
ISBN978-4-7842-1344-3

日本古代即位儀礼史の研究

加茂正典著　　思文閣史学叢書

大嘗祭はもちろん、剣璽渡御儀礼・即位式といった広義の即位儀礼をとりあげることで、桓武・平城朝における即位儀礼の儀式的意味と歴史的意義を明らかにする。さらに資料篇として史料年表、関係文献目録（昭和20年～平成10年）を収載し、巻末には索引を付す。

▶A5判・480頁／定価 9,030円
ISBN4-7842-0995-6

御堂関白記全註釈［第２期 全８冊］

山中裕編　　*待望の完結!!*

第１回　長和４年　定価　6,300円
第２回　寛弘３年　定価　5,775円
第３回　寛弘７年　定価　5,775円
第４回　寛弘４年　定価　5,775円
第５回　寛弘８年　定価　6,825円
第６回　寛弘５年　定価　5,250円
第７回　長和５年　定価　12,075円
第８回　御堂御記抄／長徳４年～長保２年　定価　5,250円

『親信卿記』の研究

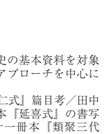
佐藤宗諄先生退官記念論文集刊行会編

蔵人の年中行事に関わる一級史料『親信卿記』から四方拝・供立春水など80項目余の記事を抽出・分離し、他本との校訂や内容の研究にとりくんだ一書。関係補論６篇のほか古代史の個別論考４篇も収録。

▶A5判・600頁／定価 10,290円
ISBN4-7842-1252-3

日本古代典籍史料の研究

鹿内浩胤著



史書・儀式書など歴史学の土台をなす日本古代史の基本資料を対象に、原撰本や如何にして接近するか、伝来論的アプローチを中心に方法論を提示。

【内容】『続日本後紀』現行本文の成立過程／『弘仁式』篇目考／田中教忠旧蔵『寛平二年三月記』について／九条家本『延喜式』の書写年代／九条家本『延喜式』小史／東山御文庫十一冊本『類聚三代格』について／伏見宮家本『東宮御元服部類記』について

▶A5判・400頁／定価 7,035円
ISBN978-4-7842-1552-2

日本古代養鷹の研究

秋吉正博著

律令国家体制の成立・展開期における養鷹の実態を究明して、放鷹文化の構造を解明。朝鮮半島系と中国系という二極の放鷹文化の伝統意識を動態的に捉えることにより、単なる遊興の道具ではない放鷹文化の展開を明らかにする意欲作。

▶A5判・280頁／定価 6,825円
ISBN4-7842-1181-0

源氏物語の史的研究

山中裕著　　思文閣史学叢書

王朝文化・有職故実研究の第一人者が源氏物語を史的に読み解く。桑式部の生涯と後宮／源氏物語と時代背景／源氏物語の内容と時代性／源氏物語の準拠と史実、の４篇と付篇からなり、特に第３・４篇は、摂関制・年中行事・準拠と史実などの面から論じる。

▶A5判・470頁／定価 9,660円
ISBN4-7842-0941-7

日本古代商業史の研究

中村修也著　　思文閣史学叢書

人間の生活は商人による多様な交易によって支えられ営まれている。本書では、これらの商人や市に関わる人々の存在形態を、交易の発生から出雲・平城京・平安京などにおける都市空間の生活の場で解析し、日本古代における商人と商業の実態を明かす。

▶A5判・432頁／定価 7,560円
ISBN4-7842-1268-X

刊行にあたって

東京国立博物館は明治五年の創設以来、我が国の文化と歴史を物語る文化財の収集と保管に努めてまいりました。その多くは展示や図録の形で日本国内はもとより広く世界の人々に紹介を図ってきました。しかしながらこれら文化財の中でも文芸や学問の精華である古典籍や、政治や社会の動向を示す古文書、古記録類は大部なものが多く、十分な情報の提供が困難な状況がありました。

このたび株式会社思文閣出版のご厚意を得て、当館の所蔵する国宝、重要文化財を主とした古典籍類を高精細な写真版で刊行する企画に着手いたしました。編集に当たっては当館の専門分野の研究員と館外の研究者が共同して原本を調査し、その成果を解題や釈文に反映いたします。また新規の撮影を含む高精細画像は、さまざまな分野の研究に資することが可能となると確信しております。

国宝九条家本延喜式に始まるこの叢書が、広く学界の基本的資料として長く利用に供されるものになることを願ってやみません。

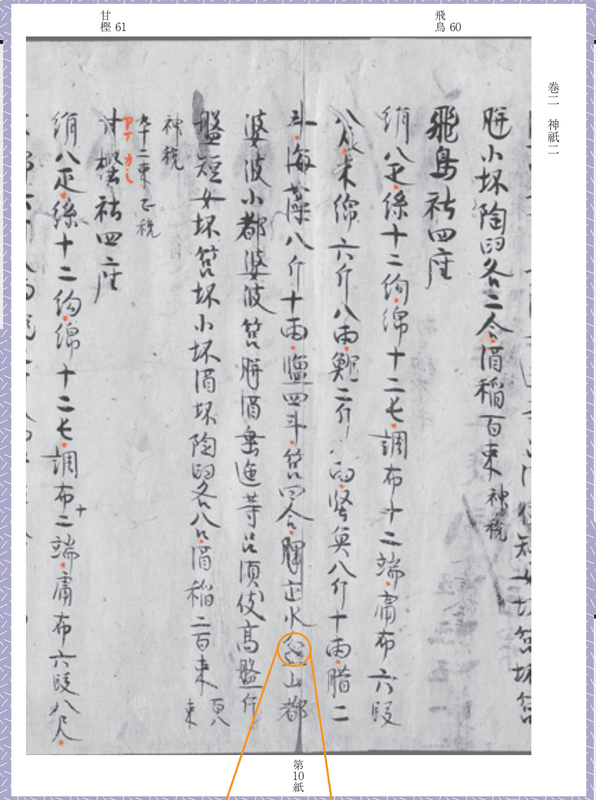
東京国立博物館

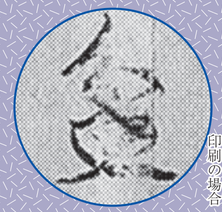
九条家本延喜式とは

「延喜式」は奈良時代から平安時代にかけて律令を施行するに当たり、折々に定められた細則や規定を分野別に集成した法典で、全五〇巻からなります。延喜五年（九〇五）に撰進されました。日本古代史研究の上での根本史料の一つです。東京国立博物館が所蔵する「延喜式」の古写本は、全体のうち二八巻を存し、五摂家の一つである九条家に伝わったことから「九条家本」と通称されます。平安時代中期から鎌倉時代の書写になる現存最古の写本で、国宝に指定されています。

特筆すべきは多くの巻の紙背に平安時代の文書を有することで、通常残された古文書では窺えない同時代の社会の実態を示す稀有の史料です。また仮名消息を含む紙背の書状類は、書道史研究にも貴重です。

■組見本（延喜式本文・原寸）■

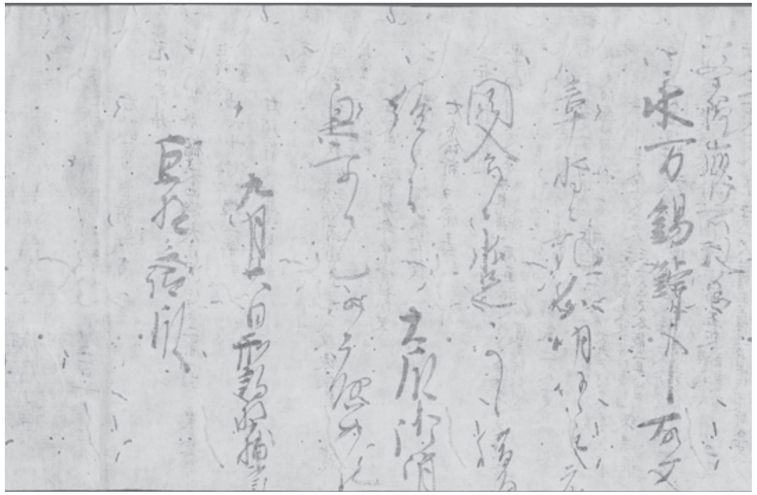




ルーペで拡大してもはっきり読めます
6倍に拡大
通常の印刷の場合

このパンフレット自体はFMスクリーン印刷ではありません。拡大部分はイメージです。

■組見本（紙背・原寸）■



特徴1 東京国立博物館所蔵の国宝・九条家本延喜式を、紙背文書も含めて写真版で影印出版

特徴2 朱書きがある箇所は二色刷とした

特徴3 原本の細部まで再現できる高精度FMスクリーン印刷

特徴4 条文番号と項目頭注を付し、各巻末に項目索引を収録

特徴5 紙背文書には新撮の高精細画像を使用

特徴6 紙背は横長で掲載し、一文書をできるだけ一頁でみることができるようにトリミングを工夫した

特徴7 第五回配本（最終回配本）に、紙背文書全点の翻刻と、九条家本延喜式の解説を付す

編集委員

島谷弘幸（編集委員長・東京国立博物館学芸研究部長）
高橋裕次（東京国立博物館博物館情報課長）
田良島哲（東京国立博物館書跡・歴史室長）
冨坂　賢（東京国立博物館保存修復室長）
田島　公（東京大学史料編纂所教授）
月本雅幸（東京大学人文・社会系研究科教授）
吉岡眞之（東京大学史料編纂所客員教授）

※肩書きは二〇一〇年一二月一五日現在